

五年間、疎遠だった初恋の幼馴染が
めちゃくちゃ育っていた件

ムチ♡

幼馴染・高嶺雪華(○6歳)
推定バスト100cm越え

※この話には妄想NTRがあります。
苦手な人は注意してください。

ムチ♡

五年前

あ、あのね、春斗くん…お、大きくなったら雪華と結婚してくれる？

もい…

もい…

なっ！は、はあっ！お、おまえみたいなべったんこと結婚するわけないだろっ！ば、ばっか！

俺は好きな子に照れ隠しからひどいことを言ってしまった！

それがきつかけだったかは……正直、覚えていないけど、その辺りから二人とも段々と別の友達と遊ぶようになっていった。(俺は男友達と、雪華は女友達と)



中学に入っで、学校が別々になると本格的に疎遠になり家が隣なのにも関わらず、まったく顔を合わせることもなくなつた。まあ、そんなわけで「俺の初恋」の「雪華」のことは、「小さい頃の思い出」となつていった……

A stylized illustration of a modern building. The building features a balcony with a red railing on the upper floor. A glass elevator is visible on the right side of the building. The text "五年後（現在）" is written vertically in the center of the image.

五年後（現在）

あ…、春斗くん？
ひさしぶりだね

え？あ…もしかして
高嶺雪華……さん？

ムチ♡

ムチ♡

うん、そうだよ。昔、よく一緒に
君と遊んだ、幼馴染の雪華だよ

ひゅわーん……



疎遠になってから約5年、道端で偶然再会した俺の
幼馴染の容姿は、以前とはまるで別人のようだった。
どちらかといえば大人しい印象だった女の子は今では
スクールカースト上位にいる美少女となっていたのだ。

逆に中学から現在、すっかりオタクとなっていて
スクールカーストの底辺……とは、言わない
までも割と下の方にいる俺とは雲泥の差だった。

だが、相手は昔仲良くしていたあの雪華だ。…いまさら何が
どうなるとは思えないが…「もしかしたら、この機会にもう
一度仲良くなれるかもしれない」。そんな淡い希望を抱いて、
俺はなけなしの勇気を振り絞って彼女をお茶に誘った…。

ムチ♡

あ、あの…た、高嶺さん？
もしよかったらこの後、暇？
おちや、お茶とかどう？

な、なんか最近の事とか、あの
昔の思い出話とかさ、そ、その
あの、したいな〜って、ふへへ！

あー、しめんね？私いま彼氏いるから……そういつの日はちよつと……

え？あ、か、カレシ……くへー、あ、そうなんだ……？

ムチ♡

ムチ♡

うん
うん

まあ、秒で振られたんだけど

気まずそうに断る彼女の顔は少し引きつっていた。
おそらく大分キモかったのだらう。「何？この人？
なんでお茶に誘ってんの？キモオタの癖に」である。

あ、あの…じゃ、じゃあ
私、このあと用事が…
あるから、い、いくね？

あ、うん…はい
じゃ、じゃあ…

結局そのあと、微妙な空気のまま
お互い別れる事になった…

帰宅後も、ずっと頭の中にあるのは、やはり雪華のことだった。疎遠になってから少し顔を合わせずらくて、意識的に彼女のことを避けていた自覚はある。だからまさかあんなスタイル抜群な美少女に成長していようとは……考えもしなかった。

それにそんな雪華に「**彼氏がいる**」という事実が…、

自分で想像していたものよりはるかに大きな精神的ダメージを与えることになっていったこと、自分のことながら驚き、彼女のことをいまだにあきらめられていない自分の惨めさも感じた。

そりやそうだ。あんだだけ可愛くておまけに胸もでかいのだ。
〇〇代のやりたい盛りの男どもがほっておくわけないっ!!



俺の知らない、この5年間で色んな男たちが彼女に
告白したことだろう…。そんな中で彼氏の一人や二人位
今までできていたとしてもなにもおかしくはないのだ…。

春斗君、紹介するね？彼が**私の彼氏**で
サッカー部のエースなイケメン君だよ〜♪

ムチ♡

ムチ♡

その中でもきつと、俺なんかじゃ到底太刀打ちできない(同じ雄として
比べるのもおこがましい)、同じくスクールカースト上位のスポーツマンで
マッチョで成績優秀なイケメン君が彼女の、**雪華の彼氏**になってるのだろう。
美男美女のカップルだ。まさにお似合いという言葉がふさわしい二人…

※これは妄想です

だから昔は仲良かったからって調子に乗らないでね？春斗君

あのね、キモオタの春斗君とは
もう住む世界が違うんだから

その辺、空気読んでね？
もう話しかけないで？

ムキ

ム

※これは妄想です

あ♡うん♡そうだね♡

早く♡

ほら、雪華、そんな「オタク君」の相手
なんかしないでさ？早く家に帰っていつも
みたいにいちやいちゃしようぜ？な？



そして帰宅した二人は…

※これは妄想です



すきー♡
すきー♡
すきー♡

すきー♡
すきー♡
すきー♡

ああん♡
ああん♡
ああん♡

たしゅかき♡
たしゅかき♡
たしゅかき♡

ああん♡
ああん♡
ああん♡

ああん♡
ああん♡
ああん♡

ああん♡
ああん♡
ああん♡

ああん♡
ああん♡
ああん♡

ああん♡
ああん♡
ああん♡

ああん♡
ああん♡
ああん♡

○代特有の有り余る性欲で……
雪華とS●Xしまくるイケメン君

すきー♡♡♡
♡すきー♡♡♡

俺はまだ童貞なのにイケメンの
やりちゃんと交尾しまくってる！

あの雪華が俺の知らない男と
何百回もS●Xを経験している、

ぐいあああ！！
♡ゆきー♡♡♡

そう考えるだけで、口惜しさや
嫉妬心、劣等感で気持ち悪くなる

※これは妄想です

そんな苦い最低な妄想と

ムチ♡

別れ際、シャツの下にうつすら見えた雪華の
「透けブラ」を必死に思い出しながら……

ムチ♡

俺は死ぬほどシコツた

なんでもだよ!!

かしらいるのかよ!!

中々不

100%

いーな

ムキ



ふう……ただいま〜

「い、いいよね？」

ああんっ♡春斗君♡

はあはあ♡

はあはあ♡

すぎすぎすぎ♡

だいしゅきだよお♡

春斗くうん♡
すきいい♡

この幼馴染の少女も久しぶりに
会った「幼馴染の少年」へ思いを
大いに暴走させていた……

というかそもそもこの少女、**カレシ**など**初め**から**いない**
大好きすぎる**幼馴染**と数年ぶりに会話することになり、
とてつもない緊張から、普段ナンパにお茶を誘われた時に
よく使う断り文句「**私、カレシ**いるんで」が出てしまったのだ。

はあはあ♡

当然、**処女である**。しかも「いつか大好きな幼馴染と
ベツトインした時に、強引に処女膜をぶち破られて永遠に
消えない傷跡を残してもらう」とことを夢見て、毎晩下着を
濡らしてしまう、そんな高度な変態さんなのである。

緊張したあ〜！わ、わたしちゃんと会話できてたよ〜
ね？ひ、ひさじぶりに〇〇君と会って会話しちゃった♡きさつ♡らま〜
からみてるだけだったけど、やっぱり生はすいけからいけいけ♡目の前と
いるだけで、子宮何度も何度もきゅきゅんうずうずしちゃうたよ〜♡
ね？春斗君♡あなたは知らないかもしれないけど、5年前の地味で
うたんな私と結婚してくれないっていうからずっと私、自分を磨い
てきたんだよ♡それも全部春斗君にふさわしくなるように

はあはあ♡

はあはあ♡

ムチ♡

きゅん♡
きゅん♡

あん♡早く春斗君のお嫁さんにな
って可愛い赤ちゃんいっぱい産み
たいよ〜♡でもまだ我慢しなくちゃ
せめて生活の基盤がちゃんと整うまで
私と春斗君の赤ちゃんだもん♡後先考
いで産んだりしたら可哀相だもんわ

つまり、なんとこの二人
お互いが相思相愛の仲

とあ、そういうのは緊張しすぎていつもナンパを避けるために
使ってる「**私カレがいるんで**」を使うちゃったけど、どうしよう！絶対
勘違いさせちゃったよね！ホントは春斗君以外なんて眼中にないし、大事な
初めては春斗君の為にちゃんと守ってるものさ、もう〜でもそんなこと
いったら重い女の子だと思われちゃうから絶対に言えないんだけど
ああ〜でも、尻軽な女の子だと思われたくないから今度は家に偶来

しかし……!!

……両方とも盛大に勘違いしている為、
お互いの気持ちになかなか気づかない

気づけば速攻ベツで
合体できるの……!!



※この物語は**妄想NTR**です。

実際にNTRされることはありませんが、
妄想の過程で過度でエッチな表現があることを
ご了承くださいm(____)m

そんな初恋の幼馴染が好きすぎる
「拗らせた童貞」と「拗らせた処女」が
お互いに誤解を解いて、いちやいちゃ
ラブラブ合体しまくりな毎日を送る
日が来るまで、あと

623日(約二年)

……多分、続く

ス この話はあららっくの
Twitterであげたイラストを
加筆、修正した物になります。

今後あららっくのTwitterでは
ピクシブ版より先行して
二人の物語を進めていくつもりです。

もし気に入って頂けたのなら、
あららっくのTwitterも
フォローしてあげてくださいね(；^ω^)!
ト

あとファンボックスもやってます。
ファンボックスはあららっくの描いた
イラストの設定とかラフ画とか
上げてます。興味のある方はこちらも
フォローお願いします(宣伝(；^ω^)!)

あ、ひさしぶり
〇〇君

ひ、ひさしぶり…

五年間、疎遠だった初恋の幼馴染が
めちゃくちゃ育っていた件

ムチ♡

第三話 幼馴染とブラジャー

ムチ♡

ムチ♡

※この話には妄想NTRがあります。
苦手な人は注意してください。

前回のあらすじ

長い間、疎遠になっていた幼馴染と5年ぶりに再会した春斗。彼女、「高嶺雪華」はまるで別人のように大きく美しく成長していた……

五年前



五年後…

ムチ



ムチ

子供の頃の不用意な発言で彼女を傷つけたと思っていた春斗はこの機会にまた仲良くしたいと思い、勇気を出す。

しかし、時すでに遅し……スクールカースト上位の
爆乳美少女へと成長した彼女には、当然のごとく

しめんね？

ムチ♡

ムチ♡

私、イケメンの彼氏いるから♡

すでにイケメンの彼氏がいるのだった……

※これは妄想です。
実際には彼氏はいません

本編スタート

……あの雪華との会話から数日が経った。時間が経つほどに俺の中での彼女は思い出の……**過去の存在ではなくなっている**。つまり再びリアルの人物として、その存在感を増していったのだ。

すぐ隣の家に彼女がいる。当たり前のことなのに、過去の後悔からどこか日常から切り離して、できるだけ関わらないようにした結果がこの様だ。なんて俺は馬鹿なのだろうか？

ふと、外で物音がした気がして何気なくカーテンの隙間からそっと隣を覗く。

窓の外は隣の家つまり雪華の家（が）があるのだが、そのスレンダーには
件の雪華が立っていた。その光景に俺は思わずどきどきしてしまう。



雪華は「半袖のTシャツに短パン」という非常にラフな格好である。
同い年の可愛い女の子のちよつと無防備な姿に鼓動が早まる...

ゆ、雪華だ...

自然と目が行くのは、あのはちきれんばかりに育った爆乳。メガサイズのバストがＴシャツを押し上げ、その存在を強く主張している……。おまけに短パンから伸びた太腿も、むちゅとしていて…健康的なのにとってもえっちな感じがする。

ムチゅ♡

ムチゅ♡

やっぱり、めっちゃくちゃ
かわいいな…おらっ…

くっ…

「こんな…覗きみたい行為は
本来いけない」とははずなのに
どうしても食いつくように…
目も焼き付けようとしてしまっ
つ。

それにしてもらいたい何をしているんだろう？と、俺が密かに見守る中…
雪華が手に「何か」を持っているのが見えた。瞬間、「あっ！…」と理解する

ま、まわが…

あ、あわっ…

んん

んん

んん

雪華の手に**大きなブラジャー**が握られていた

ふと思い起しおぼえるのは、**5年前の彼女との記憶**



その当時…**ブラジャー**というものに興味を持ったマセガキの俺は、幼馴染の雪華の背中を捲りまくっていたことがあった。

な、ブラジャーを見せてよ

えっ！ちやあつ！！

プツン

は、春斗くん？あ、あの…

ん？なんだ？「これ」が雪華のブラジャーなの？お母さんのと、かなり違うな

…いま思うと、雪華はスポブラのようなものを着けていたと思う(当時はよくわからなかった)

その雪華がたった5年であんな大きな……まるで帽子のような
ブラジャーをつけるようになるんで、誰が予想できただろうか？

す、す……

んぢ♡

どれだけ大きいんだよ
あのおっぱい……(ニクリ)

んぢ♡

少女の頃の彼女しか知らない俺は、そんな幼馴染の変化を象徴する
モノの存在を目撃して、自分でもよくわからないショックを受けていた。

おまけにだ、どう見ても同年代の女子がつけるには**大人過ぎた**
デザインのブラジヤーは…嫌がおつにも「それを見せる相手が
雪華にはいるのだ」………といつことを俺に意識させた。すなわち…

例の**雪華**のイケメンな彼氏くんの「とだ

ムチ♡

ムチ♡

ムチ♡



例えば…あの恰好で彼氏を家に招き入れたとしよう。親は旅行中…、明日の朝まで二人きり…そんな雪華の寝室だ。

今日ね…うちの親
出かけていないの♡

だからイケメン君♡
うちに泊っていい？

そんな状態で健康な〇〇代のカップルがすることといえば
たった一つしかない。二人はセックスする気満々なのだ…。

ムチ♡

ムチ♡

ムチ♡

ムチ♡

もちろんいいよ

※これは妄想です

きつと雪華は彼氏に喜んでほしいとあの下着を買ったのだ。
いや...もしかしたら、彼にプレゼントされたものかもしれない。

じゃ〜ん♡ほらこれ
この前、イケメン君に
買ってもらったブラ♡

今日の為に初めて着けて
みたんだけど、どうかな？

どたかーん

がるん

がるん

さ、最高だよ！
すごくえっちな

めっちゃくちや
興奮するっ！

とりあえずズンヤツの上だけめくりあげて彼氏に感想を尋ねる。
イケメン君は大いに喜び、**自分の彼女を褒めまくるの**だろう...

彼氏は当然の権利と言わんばかりに
あの雪華の爆乳を下から上へと
揉みまくって堪能しまくるのだっ！

やんっ♡触り方が
イヤらしいよお…♡

んっ♡あっ♡

いちゃ♡いちゃ♡

相変わらず、この
重量感…幸せ…！

そんな男の行為に対して雪華も
満更じゃない表情で愛おしそうに
そのすべてを受け入れている…！

もみ

もみ

もみ

もみ

俺なんかがどんなに望んだところで
一生触れることなどできない雪華の
秘所を男の太い指が丁寧にかき回す

い、イケメン君♡
イケメンくぅん…♡

おっ
おっ♡♡

ほら、雪華の好きなのは
こじだよね？知ってるよ。

下着ごしにどんどん増していく
雌穴の湿り気は、彼氏の逞しい
雄を受け入れる準備をして行く

たぶっ♡



「…ハズナはオレの謝罪の為に死なされた」

キーン

すいかん♡

くちゅ♡
くちゅ♡

ぐちゅ♡
ぐちゅ♡

やがて、雪華の方から「早くセックスしたいの♡」と切り出す。甘く蕩けた、雄に媚びを売る雌声にイケメン君は満足そうに「いいよ、しよう」と微笑む

あのねっきよ、今日の為にコンドーム一箱(12個入り)買っておいたのぉ♡

ふー♡ふー♡♡

へっ、ってことは最初からエッチ期待してたんだっ？

両者合意の下で行われる**交尾**……どんなに嫉妬しても、そこに他人の入り込む余地などない。

ううん♡そうなの♡こんなえっちな女の子……イケメン君は嫌いかな……？

たぷっ♡

全然？むしろ、俺の彼女最高って改めて思った(笑)

もみ

もみ

ぴったりとしたボクサーパンツを脱ぎ捨てると
圧倒的存在感を持った雄のシンボルが解放される。
イケメン君自慢の長さ20センチ越えの巨根

もっりっ

ほら、見てよ。

ド

ビ

ビ

ほら、雪華のおかげで
俺もすごい興奮してる

あ、すごい……
飛び跳ねてる……♡

すでに、臨戦態勢であり、いつでも交尾に臨める
ようにMAXまで勃起している様は男の俺から
しても嫉妬を覚える雄々さ。何よりも雪華は
この逞しい雄の女になってしまった事実が……！
俺じゃあどんなに逆立ちしても何一つ永遠に勝つ
ことができない優秀な雄に、激しい嫉妬を覚える

それから慣れた手つきでコンドームを装着すると
今日の記念に携帯でお互いの「枚数」撮る……

イチゴパイレーツ

びびる……♡

ニヒッ

ドキドキ♡

4枚♡

ゴッ♡

ゴッ♡

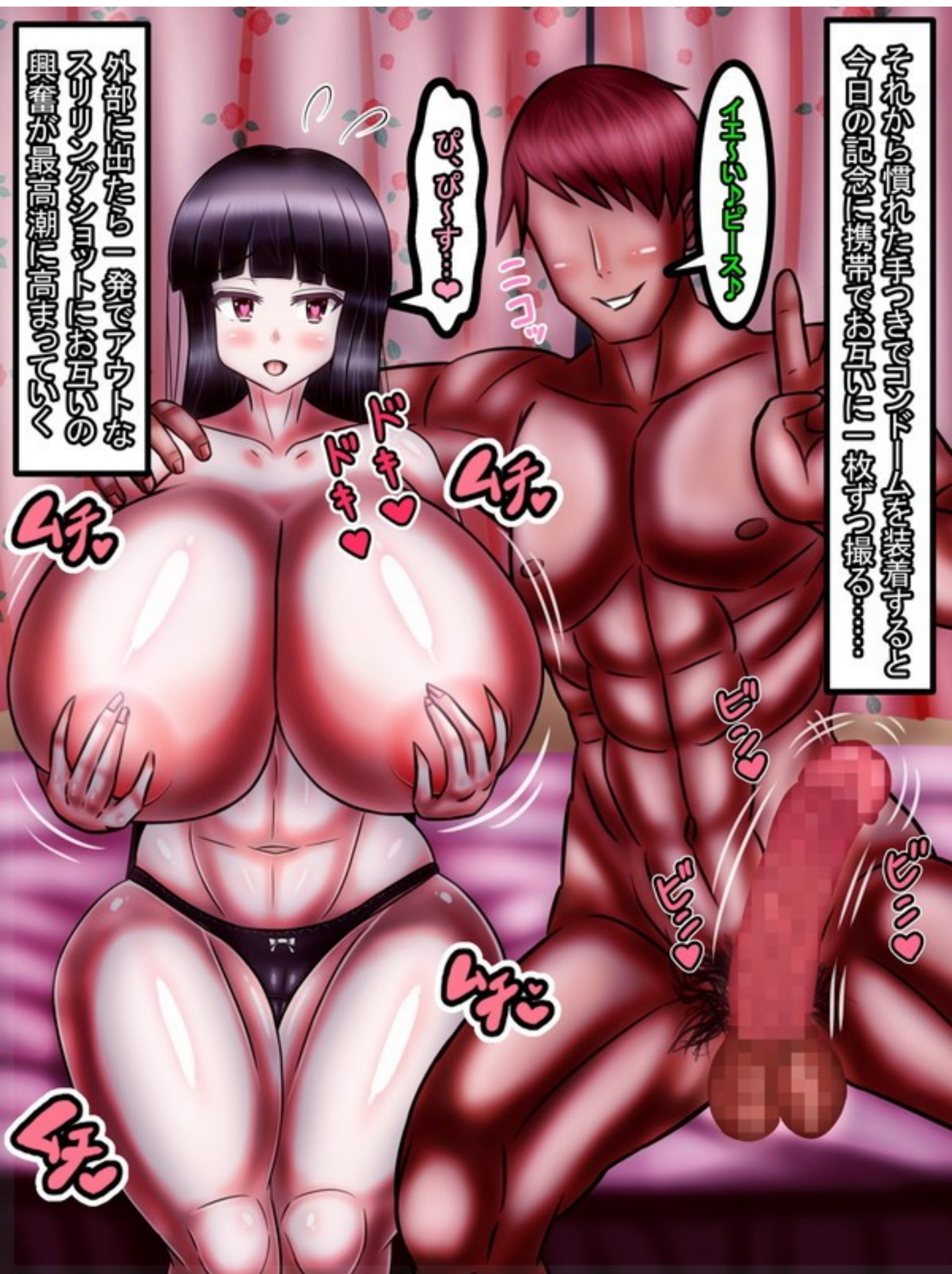
ゴッ♡

4枚♡

外部に出たら一発でアウトな
スリリングメントはお互いの
興奮が最高潮に高まっているく

4枚♡

4枚♡



…準備は「こ」まで。後はもう本番に臨むだけ。愛する二人を邪魔するものは何もない。もう待ちきれないとばかりに彼氏が少し強引に雪華に覆いかぶさる…。

それじゃあ挿れるよ？雪華？

うんっ♡来てえ♡イケメン君♡

すでに付き合い始めてから3か月あまり…その間何度も何度も肌を重ねた。ほとんど手間取ることもなく、亀頭の先端を雪華の雌穴に押し当てる…

♡チ♡

♡チ♡

♡チ♡

♡チ♡

おおおっ……

ぬっぽう……♡

あつちゅう……

二人は合体した……

ああんっ♡来たあ♡

※何度も言いますが
これは春斗君の妄想です

それから**雪華**とその**彼氏**は時間の
許す限りSOXし続けるのだらう

たまに入れる水分補給と使用した
コンドームの交換を除いて、交尾を
続ける。盛りをついた動物みたいに

一時間、二時間...

何度も何度も...

パッ

パッ

パッ

パッ

パッ

パッ

パッ

あ♡♡♡

や♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡

あ♡♡♡
あ♡♡♡

あ♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡

くそっ…！なんでだよっ！本当なら
その場所は！雪華の傍に居るのは！

あーいえるよ！
♡ゆきかーい♡

♡ぐおおお♡
♡ああ…♡

なんで彼氏作ったんだよっ！雪華！
俺の何が間違ってたんだよ！くそ！

俺のはずだったのに！

♡♡♡
きてるう

♡あっいのが♡
♡おくに♡

♡イケメン♡
♡だーい好き♡

なんで…なんで…

♡わたしも♡
♡あーいえる♡

なんて…本当は分かってる。悪いのは俺だ。現実に関わることを避けてきた。あげくうまくいっている奴らに嫉妬するしよーもないオタクの僻みにすぎない…

というかそもそも、雪華…いや高嶺さん…好かれてたつてのが…おかしな話なのだ。アレは子供の時特有のモテ期、フイーバータイムみたいなものだったただけなのだ…。

こんな今じゃない…そんな今も選べたはずなのに、俺はなにが行動する「こと」を恐れ放棄した。ただ、それだけの話なのだ……

あげく彼女を傷つけてそのまま5年も避けたお前がどの面下げて「もう一度仲良く…」とか思えたんだよ。…おい

だから…もう一度忘れよう。もともと俺たちにはもう
接点なんかほとんどなかったんだし…大丈夫、大丈夫

だから「うっやっやっ」って気にするのもやめようぜ。だって
冷静に考えてキミいしそれにストーカーみたいだし

んっ♡

んっ♡

で、それに…「また」彼女の迷惑になるのは
しめんだ。だから…その…今日で…終わりに

んっ♡



かありすぎー
だろっ!!

やきか!!

くそっ!! いい
やっばすぎた

しーこ
しーこ
しーこ
しーこ

しーこ
しーこ
しーこ
しーこ
しーこ
しーこ

くそっ!! あきッ
めろあめい!!

!!あぁあぁ!!

結局、俺は雪華を諦められず
彼女を思っで二人一心不乱に
自分の息子をじくまくった

罪悪感と惨めさに苛まれるのど
くろくてもやめられなかった...

その日は**5回ほど**射精して
ようやく収まるのだった。

一方その頃…彼女はどうして

初めての時は「これかな？」
それとも「うちの方…？」

ん～春斗君って…どんな
下着が好みなのかな～？

んん

んん

あーん♡悩んじゃうよぉ♡
春斗君♡春斗君好き♡♡

んん♡

同じく幼馴染の「こと」を考えていた(朝からずっと)

相思相愛の幼馴染二人が
お互いの思いに気が付いて
いちやらぶするまであと…

6-8日

おそらく…まだ続く

んん

んん

はよ、気付けっ！
そしてくっつけよ！
といつか…

もっと頑張れ春斗。
応援してるよ、雪華ちゃん。



この話はあららっくの
Twitterであげたイラストを
加筆、修正した物になります。

今後あららっくのTwitterでは
ピクシブ版より先行して
二人の物語を進めていくつもりです。

もし気に入って頂けたのなら、
あららっくのTwitterも
フォローしてあげてくださいね(；^ω^)!
(コメントとか貰えたらその分やる気も
上がると思います！多分！)

あとファンボックスもやってます。
ファンボックスは支援者様向けに、
「雪華ちゃんのNTR(妄想)シリーズ」を
順次公開しています。内容は今回の
エッチな妄想の追加差分だと思って
頂けるといいかと。興味があれば、そちらも
ぜひぜひお願いします(宣伝)

五年後(現在)